

東北大学附属図書館報

木這子



BULLETIN OF
THE TOHOKU UNIVERSITY LIBRARY

このページは
著作権処理の都合上、
ご覧いただけません。

このページは
著作権処理の都合上、
ご覧いただけません。

このページは
著作権処理の都合上、
ご覧いただけません。

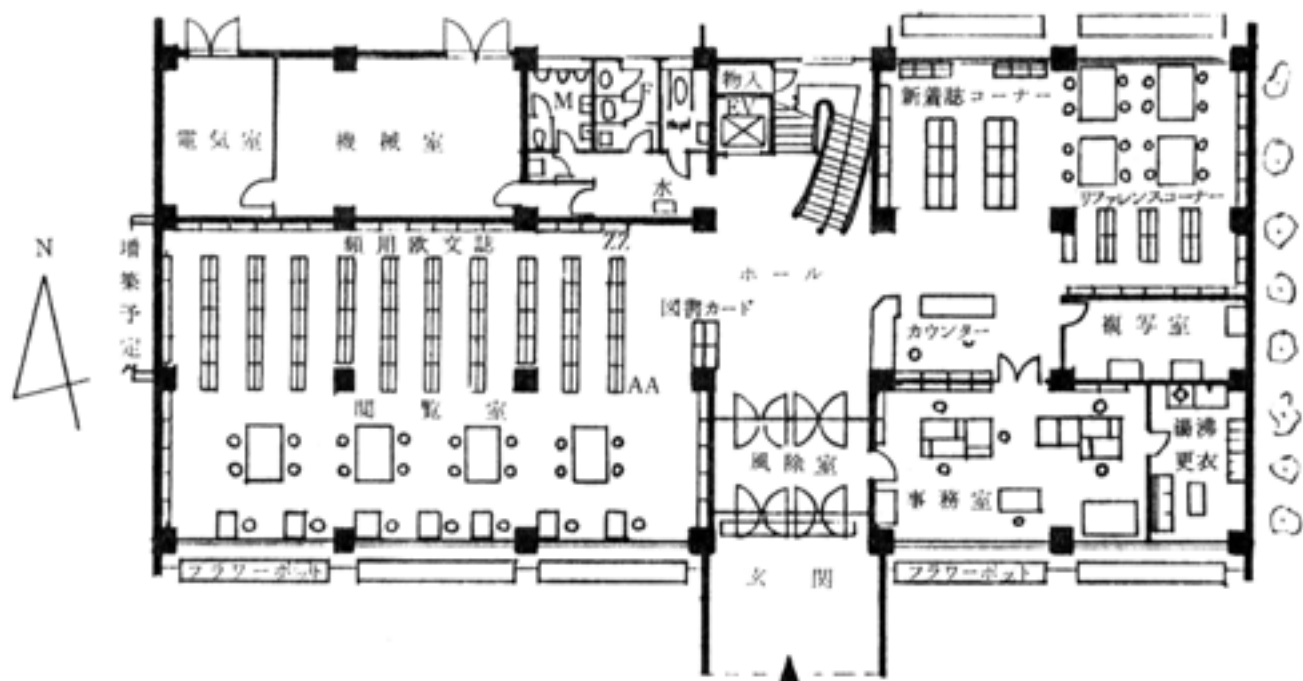
このページは
著作権処理の都合上、
ご覧いただけません。

附属図書館農学分館工事概要

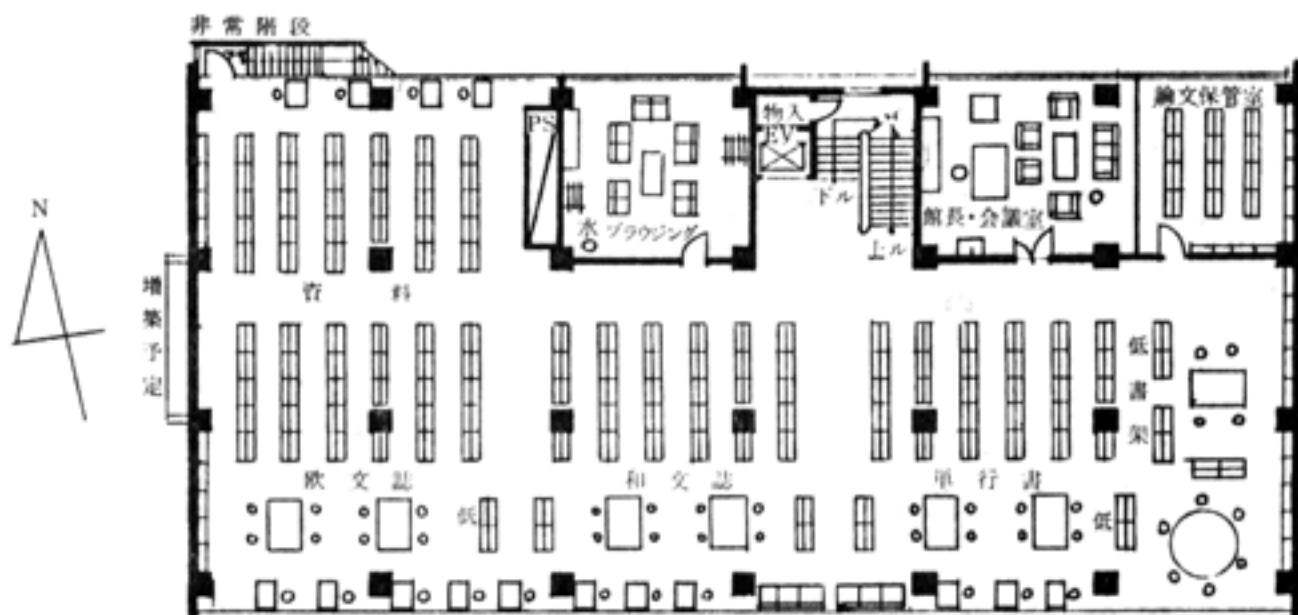
設計者	東北大学施設部	床面積	1階 587.73m ²	
着工日	1978年9月30日		2階 647.85m ²	
竣工日	1979年3月24日		P.H. 40.31m ²	合計 1,275.89m ²
構造	鉄筋コンクリート造	2階建	外部仕上	タイル仕上, 1部吹付
内部仕上				

階	室名	床	壁	天井
1階	風除室	タイル張り	タイル張り	岩綿吸音板張り
	ホ一ル	カーペット張り	複層模様吹付け	石膏ボード張り
	事務室	ビニルタイル張り	モルタル塗りE.P.	岩綿吸音板張り
	湯沸・更衣室	カーペット張り	多彩模様吹付け	岩綿吸音板張り
2階	新着誌コーナー	カーペット張り	天然目シート張り	化粧石膏ボード
	リファレンス室	ビニルタイル張り	布張り	岩綿吸音板張り
	閲覧室	カーペット張り	モルタル塗りE.P.	化粧石膏ボード
	E.V.ホール	カーペット張り	多彩模様吹付け	岩綿吸音板張り

設備 電気設備, 火災報知設備, エレベーター設備, 給排水, ガス衛生設備工事, 空気調和設備
 総工費 146,300千円
 工事関係会社 建築 木田建業株式会社仙台支店 空調 山本設備工業株式会社
 電気 平和電工株式会社仙台出張所 エレベーター 三菱電機株式会社東北営業所



附属図書館農学分館 1階 平面略図



2階 平面略図

資料紹介 5

The National Union Catalog, Pre-1956 Imprints

London, Mansell, 1968- 750v. (予定)
(続刊中)

米国議会図書館 (The Library of Congress=LC) は、1800年創設の長い歴史と伝統に加え、所蔵する資料の多いことでは世界第一級の図書館である。LC は今世紀はじめより全米総合目録 (National Union Catalog=NUC) 作成という大事業を計画しており、そのための準備として国内の多くの図書館から所蔵する資料の目録カードの提供をうけるなど、NUC を目指したさまざまな試みを実施してきた。その過程において下記の総合目録類を刊行している。

1. **A Catalog of Books Represented by Library of Congress Printed Cards, issued to July 31, 1942.** Pageant, 1958-1960. 167v. (本館所蔵)
2. **Supplement: Cards issued August 1, 1942-December 31, 1947.** Pageant, 1960. 42v. (本館所蔵)
3. **The Library of Congress Author Catalog, 1948-1952.** Pageant, 1960. 24v. (本館所蔵)
4. **The National Union Catalog, 1952-1955 Imprints.** Edwards, 1961. 30v. (本館所蔵せず)
5. **A Cumulative Author List, 1953-1957.** Edwards, 1958. 28v. (本館所蔵)

これらの目録は、LC が所蔵するものだけを集めた目録にはじまり、各界の強い要望と期待からやがて北米の数百の図書館の所蔵情報をも加えた NUC としての体裁を整えるに至った。

標記目録は上述 5 点を基礎資料として作成されたことはよく知らせている。しかし NUC の収録内容にしては不十分であるとの理由から、Harvard University Library など 5 館に選択的、遡及的調査による所蔵情報の提供を依頼し、より網羅的な NUC を目指して作成されたのが標記である。これには、1955年以前刊行の LC の全蔵書とカナダを含む北米の 800 余の図書館が所蔵するロシア語、東洋諸語を除いた図書が目録が集められている。雑誌など逐次刊行物はごく一部を除き収録されていない。

個々の標目は American Library Associa-

tion の Cataloging Rules for Author and Title Entries, 1949 ed. によっている。又、100 年以上の長期にわたり数百の図書館が独自に作成した目録カードが集められたため、標目に不統一がある。これは多くの cross-reference で補なわれている。その他記述に関しては、カード提供館の情報が全体の統一を乱さない限り認容されている。記述の最後に LC が所蔵しているものは LC 分類と DC 記号が付されており、その他の館で所蔵されているものにはその館の略記号が記載してあって相互貸借の便宜が考慮されている。その他ローマ字と数字からなる個々の情報の固有番号も付与されていて情報の確認に利用できる。

標記につづく NUC としては下記がある。

- **The National Union Catalog, 1956 through 1967; A Cumulative Author List.** Rowman and Littlefield, c 1970-1972. 125v. (本館所蔵)
 - ——— 1968-1972. Edwards, 1973. 128v. (本館所蔵)
 - ——— 1973-1977. Rowman and Littlefield, 1978- 150v. (本館所蔵)
- (参考調査掛)

学術情報処理研修について

調査研究室

石垣 久四郎

筑波大学主催の第 1 回学術情報処理研修は、昭和 53 年 10 月 2 日から昭和 54 年 3 月 20 日まで、約 6 ヶ月の期間、全国から 5 名 (計算機関係 3 名、図書館員 2 名) が参加し、同大学学術情報処理センターに於いて行われた。この研修の目的は、「図書館および計算センター等に勤務し、学術情報処理に関する研究や業務に携っている者および研修を希望する者に対して、基礎的知識と実際の経験とを習得させること」である。そして、研修の方法は、各々個人があらかじめ自分の研究・研修テーマを提出し、おおむねそのテーマに即して進めてゆくという計画である。しかし、今回は第 1 回目でもあり、多少計画通りに行われなかった面もあったが、いろいろな面で有意義なものであったと思われる。

また、主な内容は、情報処理論、索引論、コンピュータの基礎、コンピュータと自然科学、コンピュータと人文社会科学、管理運営論、日本語処理 (含漢字)、学術情報論、コンピュータと図書館、コンピュータの応用、データベース検索法、データベースの作成、データベースのソフトウェア、コンピュータプログラミング等であり、内容

としては非常に豊富であった。

そして、以上の内容等について、学術情報処理センター（TOSBAC 5600-16E システム、本年4月に ACOS 800 II ヘリブレース）が有している会話型情報検索システム IDEAS/77（Interactive Database Easy Accessing System, 77）を使用して各種データベースの検索やシステムの検索効率等について実験・検討等を行った。また、応用プログラムを作成し、データベースから書誌情報を検索してカード形式へのプリントアウトや、KWIC 索引の作成等、図書館業務で実際に必要な処理をも行った。

ここで、IDEAS/77 について簡単に触れてみる。このシステムは、学術情報処理センターとメーカー（東芝電気、日電東芝情報システム）との共同で1975年4月より開発に着手し約3年の開発期間（500人/月の要員、システムプログラム総ステップ数約28万）を費やし、1977年10月に第1期の開発を終了し、一般に公開している。現在、15種以上のデータベースについてオンラインで情報検索サービスを行っている。

このシステムは、英文字（含カナ文字）情報だけでなく漢字情報、数値情報等あらゆるデータを自由に検索できるデータベース管理システムである。その上、ソーラスファイルを利用した試行錯誤的検索、データベースの更新（修正・追加・削除）、数値情報の四則演算、特殊関数、出力としてのソーティング機能、編集、レポートング、そして検索手順の登録、機能（プロファイル）等、多種多様のコマンド群とユーティリティプログラムを有している。

また、豊富なサブコマンドや補助記述子が準備されているので、検索効率は飛躍的に高められてあり、単に、文献情報の検索だけでなく、DBMS（Data Base Management System）としての機能をも合わせ持っている汎用データベース検索システムである。IDEAS/77 は未だ完成されたシステムではなく、今後もいろいろな機能の追加やバージョンアップが続けられている。特に、情報検索システムを図書館等実業務へ利用させる場合、重要な機能はオンラインベースにおけるデータベースのレコードの更新機能である。この機能の開発は本年6月中に完了し追加すると聞いている。この機能は DAL（バッチ・モード言語）更新のように他言語の処理を禁止することなく、同一データベースに対し、任意の時点で検索/更新処理が可能となるのである。

なお、筑波大学中央図書館では、センターと共同で、この IDEAS/77 をベースとした目録・選書業務等を含めた電算機化 TULIPS（Tsukuba University Library Information Processing System）というトータルシステムを指向した機

械化が進められており、本年10月新館と共に完成する予定である。

さて、この研修において特に有意義であったと思われることは、データベースの作成であろう。各種データベースの内容を綿密に調査し、データの特徴を抽出するようにデータ構造を加工して、システムに対し最適なデータレコードを作成し、入力（creat）するという検索システムの中核的な処理である。これは、時間のかかる処理で、期間の約2/3位費やし、徹夜の日も度々あり懐しく思い出される昨今である。

以上、思い出しながら触れてみたが、本年6月学術審議会から「今後における学術情報システムの在り方について」の中間報告があったように学術情報の組織化と利用・検索システムの確立は、今後の学術研究の振興にとって極めて重要な意義を有していると考えられる。そのためにも、この研修・研究が今後益々発展されるよう期待する次第である。

おわりに、いろいろとお世話下さった中山和彦センター長はじめ教職員の方々に深甚の謝意を表したい。

第26回国立大学図書館協議会総会

日時：昭和54年6月21（木）～22（金）日

場所：大阪科学技術センター

標記会議は、近畿地区の大阪大学が当番館となり、全国国立大学附属図書館長、事務（部）長、課長等約220名が参加開催され、学術国際局情報図書館課からは田中久文専門員、糸金則由紀大学図書館係長が列席された。

総会は、一般経過報告、各地区協議会報告、図書館機械化・図書館相互協力の二つの調査研究班報告、役員選出（会長館：東京大学、副会長館：東北大学、京都大学）、協議会賞選考委員会報告（授賞2件）などが行われ、つづいて、学術国際局情報図書館課田中専門員より学術審議会から出された「今後における学術情報システムの在り方について」の説明が行われた。研究集会は、「大学図書館機械化実施上の諸問題」をテーマとして東京学芸大学、広島大学、香川大学事務（部）長よりの実施経過と今後の問題点についての報告を中心に討議が行われた。分科会においては、第1分科会図書館機能の整備、図書館建築必要面積算定基準、開館時間等、第2分科会図書館経費、設備費関係等、第3分科会図書館職員の増員、機構整備、待遇改善等について討議され、全体会議において各分科会の討議の結果のとりまとめが行われた。次期総会は、東北地区に決定し、本学が当番館として明年6月19～20日の両日川内記念講堂で開催する予定である。

昭和53年度特別図書購入報告

特別図書購入費によって、下記資料を購入し本館書庫に備付けましたのでご利用ください。

図 書 名	巻 号	刊 年
Deutsche Bibliographie, Bücher und Karten. (西独全国書誌) 1966—1970.		1975—1976
Bibliografia Nazionale Italiana Catalogo Cumulativo 1886—1957. (イタリア図書総合目録)	1—25	1968
Comprehensive Dissertation Index. (米国学位論文総合索引) 1976 Annual Suppl.		1976
マイクロフィッシュ版「新潮」 明治篇 大正篇	No. 1-171 No. 172-683	1677 1977
Classical Quarterly. (季刊 古典研究) Series 1. New Series.	Vol. 1-44 Vol. 1-25	1907—1950 1951—1975
Philosophical Transactions of the Royal Society of London. (ロンドン王立協会哲学叢報)	Vol. 56-70 General Index	1766—1780
British Journal of Mathematical and Statistical Psychology. (数理統計心理学ジャーナル)	Vol. 1-28	1947—1975
Journal of Research in Personality. (性格心理学誌)	Vol. 1-11	1966—1977
近代中国史料叢刊 続編 7 編～16 編		1972
Aufstieg und Niedergang der römischen Welt. (ローマ世界の勃興と衰退) Teil 2.	Bd. 1-3	1973
Unpublished State Papers of the English Civil War and Interregnum. (未刊 イギリス国務文書) Part 3. (Microfilm)		1975
Great Britain, Public Record Office. Lists and Indexes. Supplementary series. (英国公記録保存所編 古文書・ 古記録集成) No. I-III, V-VI, VIII-XV & Acts of the Privy Council of England.		1964—1974
U.S. Foreign Policy in Transition. The SWCC/SANACC Case Files, 1944-1949. (冷戦期のアメリカ外交政策 資料) (Microfilm)		1975
American Digest System. (アメリカ判例索引集) 8th Decennial Digest.	Vol. 1-36	1966—
Selden, I. Mare Clausum seu de Dominio Maris: Libri duo quorum argumentum pagina versa. (セルデン著, 領海権論)		1636
English Legal Manuscripts on Microfiche. (英国法律関係古文書集成) Stage I: The Harvard Law School. Section I: Year Books. Section II: Reports of Cases 1500-1700. Section III & IV: Reports of Cases after 1700. Section V: Readings and Moots in the Inns of Court.		1975
Wirtschaft und Statistik. (経済と統計) Table.	Vol. 1-22	1949—1970
近世の廻漕史料 マイクロフィルム版		
U.S. Treasury Department, Treasury Bulletin. (アメリカ財務省, 財務報告) 1951—1974.		1951—1974
Statistik des deutschen Reichs. (ドイツ帝国統計) Neue Folge.	Bd. 240-308	1914—1924
The Academic Profession. (大学の歴史)		1977
Community and Junior College. Journal. (地域と大学) Formerly: Junior College Journal.	Vol. 1-44	1930/31— 1973/74
The Mackinnon Papers. (マッキノン文書) (Microfilm)		1977
Romantic and Victorian Literary Criticism. (ロマン派・ヴィクトリア朝文芸批評) 52 Vols.		1977—1978

宮城県沖地震関係

文献一覧・5

地震と地震動

- (362) The National Research Center for Disaster Prevention, Science and Technology Agency. :Digitized data of strong-motion earthquake records (1)—1978 near Izu-Oshima earthquake and 1978 off Miyagi Pref. earthquake—, Review of research for disaster prevention, [防災科学技術研究資料 (欧文)] No.40 P.1~371. 1979.3
- (363) 原田秀雄 : 報文 1978 年宮城県沖地震の解析. 農業土木学会誌 : 47 巻 6 号. 9~14 頁, 昭54. 6.
- (364) 原田秀雄 : 1978 年宮城県沖地震の余震活動. 東北技術だより : 96 号. 1~15 頁, 昭53. 12.
- (365) 原田秀雄・鉢嶺猛 : 1978 年宮城県沖地震に関する発震機構 (第 2 報). 東北技術だより : 97 号. 25~44 頁, 昭54. 2.
- (366) 原田秀雄 : 1978 年宮城県沖地震に関する断層と津波の波源 (第 3 報). 東北技術だより : 98 号. 33~43 頁, 昭54. 4.

建築・設備

- (367) 日本電設工業協会技術委員 : 1978 年宮城県沖地震電気設備被害状況調査報告. 電設工業 : 24 巻 10 号. 1~22 頁, 昭53. 9.
- (368) 山原浩 : 造るための技術だけでなく造ったものを見直す技術を. 日経アーキテクチュア : 84 (1979. 6. 11) 号. 110~114 頁.
- (369) 栗原不二夫・論説 1978 年宮城県沖地震の被害の実態. 建築設備と配管工事 : Vol. 16. No. 12. 76~84 頁, 昭53. 12.
- (370) 建築業協会 (財) : 宮城県沖地震被害状況調査報告書. 東京. 同協会. 142 頁, 昭53. 9.
- (371) 建築研究振興協会 (社) : 1978 年宮城県沖地震における家具の転倒及び建築設備の被害調査. 同上. 1~52 頁, 53. 7.
- (372) 建設省建築研究所災害調査団 : 1978 年 2 月 20 日宮城県沖地震による窓ガラスの破損に関する調査報告. 建築研究資料 : 23 号. 1~93 頁, 昭53. 10.

ライフライン

- (373) 中林一樹 : 宮城県沖地震にみる被害規模と都市機能に関する課題. 予防時報 : 118 号. 52~56 頁, 昭54. 7.

医療・社会福祉施設

- (374) 算 和夫 : 宮城県沖地震と病院建築・設備. 病院設備 : Vol. 20. No. 6. 4~13 頁, 昭53. 11.
- (375) 笠原重剛・橋本孝禧 : 宮城県沖地震による建築設備の被災状況調査と耐震対策. 病院設備 : Vol. 20. No. 6. 17~24 頁, 昭53. 11.
- (376) 伊藤 昂 : 宮城県沖地震を体験して. 病院設備 : Vol. 20. No. 6. 27~30 頁, 昭53. 11.
- (377) 枝村 巖 : 宮城県沖地震による被害状況等について. 病院設備 : Vol. 20. No. 6. 31~38 頁, 昭53. 11.
- (378) 酒井作蔵 : 宮城県沖地震とその感想. 病院設備 : Vol. 20. No. 6. 41~42 頁, 昭53. 11.
- (379) 菅原重雄 : 宮城県沖地震の状況と対策. 病院設備 : Vol. 20. No. 6. 43~47 頁, 昭53. 11.
- (380) 高橋 栄 : 恐怖の宮城県沖大地震. 病院設備 : Vol. 20. No. 6. 51~56 頁, 昭53. 11.
- (381) 高橋一郎 : 宮城県沖地震と病院. 病院設備 : Vol. 20. No. 6. 59~61 頁, 昭53. 11.
- (382) 大平充夫他三名 : 座談会・宮城県沖地震を中心に“地震対策を語る”. 病院設備 : Vol. 20. No. 6. 63~72 頁, 昭53. 11.

防 災

- (383) 田辺昭次 : 「超高層は安全」の神話にメス, 災害時設備に機能マヒの恐れ, 東京都火災予防審の答申にみる「ここが弱点」. 日経アーキテクチュア : 83 (1979. 5. 28) 号. 34~39 頁.

市民生活

- (384) 櫻井恵美子・池田博子 : 地震! その時私は—仙台の主婦からの報告— 東京. 至誠堂 : 265 頁, 昭54. 5.

世論調査

- (385) 宮城県 : '78 宮城県沖地震災害の実態—住民等の対応および被害の実態調査報告—, 同県. 312 頁, 昭54. 6.

宮城県沖地震に関する文献の連載は、一応今回をもって終了いたします。今後収集いたしました文献については、随時まとめて掲載いたします。

御協力をいただきました各方面の方々にはこの紙面を借りて厚く御礼申し上げます。

東北大学記念資料室だより

○ 昭和54年3月をもって停年退官された教官のうち希望のあった11人の方々の、個人別著作目録が完成した。これは本室が創立（昭和38年）以来、毎年おこなって来た全学へのサービスで、今年で通巻第170号に達しており、いまでは本学の歴史をふり返るに当って、貴重な資料となっている。1人あたり配布冊数は原則として100冊である。本年は本室室員の努力によって、例年よりも早く出来上った。

黒田正典教授、小林卓郎教授、須藤俊造教授、武田昭教授、玉城康四郎教授、縄田滋則教授、八田吉典教授、早川典久教授、藤井康治教授、不破祐教授、吉田重知教授

○ 本学成瀬政男名誉教授、旧制第二高等学校野口明校長の逝去に接し、深く哀悼の意を表する。最近おしまれつつ亡くなられた上記の成瀬・野口両先生は、本室と格別深い因縁があって、いずれも本室の発展のために大きな力を加えられた。成瀬先生は本学工学部の御出身で、戦前すでに歯車の研究の世界の第一人者として高名であり、欧州へ留学の渡航に際し、のちに「旅愁」にまとめられる旅をしていた文学者横光利一と同船し、色々と影響を与えたことも有名である。本室が発足してまもないころ、先生は聞きつたえて知り、その活潑な活動をはげまして、多くの著書を寄贈して下さい。歴史を重んずる規模の大きい自然科学者に、深い敬意を抱いたことである。

野口明校長の立派なお人柄についてはここに云々するまでもないが、本室としては二高同窓会長として旧制二高の各種の貴重な記念物を、先見の明をもって果敢よく本学——本室に寄贈することを実施せられたことへの尊敬の念は消えない。先生は、結局これらの管理保存にあたる永続的な人々——機関がなくてはならないとし、上述の措置をとられた。それは当時の自筆書簡に明らかである。こうして二高の校旗や、歴代校長の肖像画や、その他大切なものが本室に永久的に保存され、創立90年の式典の時には陳列して先生にも悦ばれたのであった。

○ 10月29日（月）以降、本学セミナー・ハウス（川渡）において、本学中堅事務職員の研修会が開催されるが、その中に「本学の沿革」という題目があり、本室原田副室長が出講を依頼されている。少し新しい角度から取扱って、関心を高めていただくべく努力するとの事である。

お知らせ

年末年始及び年度末の延長開館は次のとおりです。

○延長開館（平日18時30分まで、土曜日15時まで—開架閲覧室—）

1. 昭和54年12月15日（土）まで
2. 昭和55年1月7日（月）～2月23日（土）まで

但し、昭和55年2月4日（月）～2月19日（火）までは自由閲覧室も利用できます。

※ 上記以外の日には平常開館（平日17時まで、土曜日正午まで）です。

指定図書について

この程昭和55年度指定図書の実施計画をたてる為、関係部局長を通じ各学部・教養部の講義担当教官にその指定方を依頼し、提出されたリストにもとずき作業が進められています。

なお、昭和54年度の指定図書は本館及び各分館又は関係部局図書室にそれぞれ配置されて利用に供されておりますので学生諸君は十分活用してください。

医学分館臨時書庫移転

医学分館臨時書庫（旧精神科）が星陵地区体育館建築のため移転せざるを得ない状況となり、7月12日から18日まで移転作業を行った。当該書庫のほか臨時書庫として旧耳鼻科書庫があり、当初計画では2書庫とも移転の予定だったが幸いなことに旧精神科書庫の移転のみですんだ。

移転先は旧脳研4号館の建物で、元来研究施設であったため分断された狭小な部屋が多く、書庫としては不適當だが止むを得なかった。2階の一部はRC造の上部に木造で建築されたもので、床面はベニヤのため書架及び図書の重量に耐えられないとの判断で、作業開始前に床を撤去した。同建物は当該書庫と棟続きで、図書等を屋外に運搬することなく建物内の移動だけで順調に作業が進行した。

移転図書は使用頻度の低い雑誌及び教室より返納された単行書が大半であり、移転期間も短期であったため、閉館措置をとることなく利用者には不便をかけないで完了することができた。

（医分リポーター）

人事異動

医学分館長鈴木泰三教授の医学部長就任に伴ない、後任として山本敏行教授が8月1日付で発令された。任期は56年7月31日までである。